

薬事情報センターに寄せられた質疑・応答の紹介（2011年11月）

【医薬品一般】

Q：非弁膜症性心房細動による脳梗塞の発症防止に、抗血栓療法（ワルファリン、ダビガトラン）が推奨される患者は？（薬局）

A：非弁膜症性心房細動（NVAF）は、リウマチ性僧帽弁疾患、人工弁および僧帽弁修復術の既往を有さない心房細動のことで、冠動脈硬化症、高血圧、心不全などに起因する。NVAFにおける脳梗塞発症のリスク評価に、CHA₂DS₂スコアが用いられている。心不全 Congestive heart failure（1点）、高血圧 Hypertension（1点）、75歳以上の年齢 Age（1点）、糖尿病 Diabetes Mellitus（1点）、脳梗塞/一過性脳虚血の既往 Stroke/TIA（2点）で、合計点数が高いほど脳梗塞発症リスクが高い。2点以上はワルファリンまたはダビガトランを推奨、1点はワルファリンを考慮可またはダビガトランを推奨。その他のリスクとして、心筋症、65～74歳の年齢、女性、冠動脈疾患、甲状腺中毒はワルファリンまたはダビガトランを考慮可。

Q：患者が夜中2時間毎にトイレに行くらしいが、頻尿か？（薬局）

A：頻尿とは、排尿回数が異常に多い状態（1日8回以上が目安）と定義される。排尿回数は個人差が大きく、飲食物の摂取や季節により異なり、一般に昼間4～6回、夜間0回である。頻尿には昼間頻尿と夜間頻尿があり、2002年の国際禁制学会の定義によれば、昼間頻尿は、「日中の排尿回数が多すぎるといふ患者の訴え」で、夜間頻尿は「夜間排尿のために1回以上起きなければならないといふ訴え」である。病態は1回排尿量の減少あるいは増加で、多尿、器質的・機能的膀胱容量の減少と心因性とに分類される。

Q：カルシトニン製剤（エルシトニンTM注等）を片麻痺の疼痛等に用いることがあるか？（他）

A：カルシトニンは甲状腺から分泌される血中カルシウム低下作用を有するホルモンで、骨吸収抑制作用だけでなく鎮痛作用も有し、骨粗鬆症の疼痛に用いられている。骨粗鬆症では骨密度の増加に先行して鎮痛作用を示し、骨病変が関与しない痛みにも有効であることが報告されている。鎮痛の作用機序は、セロトニン作動性下行性抑制系の賦活、 β エンドルフィンの血中濃度上昇、疼痛を促進するサイトカインやプロスタグランジンの局所産生抑制などが推測され、癌性疼痛、脳卒中後の片麻痺患者の疼痛や肩手症候群（肩と手の疼痛と腫脹を主徴とする難治性の疼痛疾患）の予防等に用いられている（保険適応外使用）。

Q：抗ヒスタミン薬（ヒスタミンH1受容体拮抗薬）が抗コリン作用を有しているのはなぜか？（薬局）

A：ヒスタミンH1受容体とアセチルコリン受容体であるムスカリンM1受容体の受容体タンパク質間のアミノ酸配列の相同性は30%以上で、他の受容体と比較して最も高い。したがって、抗ヒスタミン薬はムスカリンM1受容体とある程度の親和性を有するため抗コリン作用を示し、第1世代抗ヒスタミン薬は第2世代に比べ受容体選択性が低いため、抗コリン作用が強い。（相同性：遺伝子やタンパク質の構造に共通性がみられ、共通の起源に由来する場合、これらを相同と言う）

Q：糖尿病患者の食事指導で、蒸留酒は糖質を含まないので飲んでも良いか？（薬局）

A：アルコール飲料100g当たりの糖質量は吟醸酒3.6g、ビール3.1g、蒸留酒の焼酎・ウイスキー・ブランデーなどは0gであるが、アルコールのカロリーは7Kcal/gである。糖尿病患者の飲酒は、食事療法の乱れの原因や、インスリンや経口血糖降下剤使用中では低血糖の誘因になることが多く、このような場合はできるだけ飲酒は避ける。食事療法や運動療法で血糖コントロールが良好で合併症がないなどの場合には、適度な飲酒（男性は純エタノール換算1日20g以下、女性はその半量以下）は可能である。

Q：腎機能の低下により、食事でカリウム摂取が制限されている。調理によりカリウム含有量は低下するらしいが、調理方法によりどう違うか？（一般）

A：食品中のカリウムは水に溶けやすく調理により残存率が低下する。鶏肉（ささみ）を用いた実験では、無調味で調理後のカリウム残存率は以下のとおりで、ゆで物、煮物、蒸し物、炒め物で有意に低く、網焼き、天火焼き、揚げ物でのカリウム損失は少なかった（中村学園研究紀要、第15号、229、1982.）。

調理	方法	カリウム残存率
ゆで物	煮沸92℃、5分、水は材料の10倍	62.6%
煮物	煮沸92℃、3分	67.1%
蒸し物	85～90℃、10分	76.2%
炒め物	フライパン表面温度250℃、表4分、裏3分	60.7%
網焼き	焼き網表面温度250℃、表4分、裏3分	94.3%
天火焼き	200℃、表4分、裏3分	93.7%
揚げ物	170℃、5分、油は材料の15倍	94.2%

【安全性情報】

Q：血液凝固阻止薬プラザキサTMカプセルを脱カプセルして服用して良いか？（薬局）

A：プラザキサTMカプセル（ダビガトランエテキシラートメタンサルホン酸塩）を開封して内容物のみを服用した場合、カプセル服用に比べて血中濃度が上昇するおそれがあるので、カプセルを開けて服用しない。

Q：授乳中（6ヶ月児）だが、処方された葛根湯を服用したら乳児に影響するか？（一般）

A：葛根湯は昔から乳汁分泌不全や乳腺炎に用いられている。母乳中への移行についてデータは十分ではないが、乳汁うっ滞症の授乳婦10名へ葛根湯エキス顆粒を1回2.5g、1日3回投与して、主成分のエフェドリンおよびグリチルリチンの母乳中移行と乳児への影響を検討した実験では、母乳中移行量および乳児の哺乳量から考慮して、乳児への影響はほとんどないことが報告されている。

Q：サラゾピリンTM（サラゾスルファピリジン）を潰瘍性大腸炎の男性が服用した場合、妊娠への影響はあるか？（医師）

A：サラゾスルファピリジンにより造精機能障害が起こる可能性があり、精子数減少や精子運動性が低下する。また、動物実験において精子運動能低下、受精率・着床数・胎児生存数低下、精子先体反応の抑制、妊よう性の低下等が報告されている。造精機能への影響は可逆的で2～3ヶ月の休薬により回復し、自然妊娠も期待できる。サラゾスルファピリジンは腸内細菌により有効成分の5-アミノサリチル酸とスルファピリジンに分解されるが、スルファピリジンが精巣上体におけるアクロゾーム膜タンパクの合成を抑制して不妊の一因となることが、ラットの研究で示唆されている。5-アミノサリチル酸製剤のメサラジン（ペンタサTM等）は男性不妊の報告はない。

【その他】

Q：健康食品でアンセリンとは何か？（薬局）

A：1-メチル-L-ヒスチジンとβ-アラニンの2つのアミノ酸が結合したイミダゾールジペプチドで、マグロやカツオなど魚類の赤身や鶏胸肉に多く含まれる。抗疲労効果や尿酸値低下作用が動物実験で示唆されている。

Q：ビール酵母を含む健康食品を摂ったら尿酸値が上昇したらしいが、ビール酵母にプリン体は含まれるのか？（薬局）

A：ビール酵母は、ビール醸造に利用されるビール酵母を精製、乾燥した乾燥酵母で、乾燥酵母には乳酸菌など有用菌を増やす作用がある。一般用医薬品等にも使用され、胃もたれ、消化不良、胃部・腹部膨満感などに効果がある。また、ビタミンB群、必須アミノ酸をはじめとする各種アミノ酸、食物繊維、ミネラルを含有する。痛風の食事療法では、プリン体の1日摂取量が400mgを超えないとされている。日本痛風・核酸代謝学会の「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第2版」（2010年）では、健康食品のビール酵母は1回（3g：1日分10粒）当たりのプリン体量が、プリン体89.9mg、尿酸換算106.8mg、ビール酵母製品は1回（2.5g：1日分10粒）当たりのプリン体量が、30.2mg、尿酸換算35.7mgのデータがある。健康食品の摂取量にもよるが、尿酸値への影響が考えられる。